



カケハシ・プロジェクト招へいプログラムの記録

対象：大学生招へい第2陣（米国）

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国から大学生及び引率者75名が2019年3月10日～3月19日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。講義、視察、日本人との交流などを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

米国：75名

（内訳）

グループA(25名)：プリンマー大学、ハヴァフォード大学、アーサイナス大学、ヴィラノヴァ大学（ペンシルベニア州）

グループB(25名)：ジョージワシントン大学（コロンビア特別区）

グループC(25名)：北ジョージア大学（ジョージア州）

【訪問地】

東京都（全員）、青森県（グループA）、滋賀県（グループB）、佐賀県（グループC）

2. 日程

	グループA	グループB	グループC
3/10(日)	来日		
3/11(月)	【基調講演】日本MGMリゾート代表執行役員兼社長、元在日米国大使館臨時代理大使 ジェイソン・P・ハイランド氏 【オリエンテーション】		
	【視察】皇居周辺 東京都から青森県へ移動	【視察】皇居周辺 東京都から滋賀県へ移動	東京都から佐賀県へ移動

3/12(火)	【表敬訪問】 【地域概要講義】 青森県南部町 【視察】 南部町営地方卸売市場 【歴史的建造物視察・文化体験】 法光寺, 座禅体験	【地域概要講義】 近江八幡市 【歴史的建造物視察】 近江八幡歴史民俗資料館, 近江八幡伝統的建造物群保存地区, 近江兄弟社メンターム記念館 【視察】 ヴォーリズ学園 【歴史的建造物視察】 日牟禮八幡宮	【表敬訪問】 佐賀県庁 【歴史的建造物】 佐賀城本丸歴史館 【文化体験】 茶道・お琴体験
3/13(水)	【学校交流】 八戸学院大学 【視察】 八戸ポータルミュージアム はっち 【ホームステイ対面式】	【企業視察】 ラ コリーナ近江八幡 【意見交換】 モーア・オースティン氏 【ホームステイ対面式】	【学校交流】 佐賀大学 【ホームステイ対面式】
3/14(木)	【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ（報告会準備）】	【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ（報告会準備）】	【ホームステイ歓送会】 【歴史的建造物】 唐津城 【ワークショップ（報告会準備）】
3/15(金)	青森県から東京都へ移動 【成果報告会】	滋賀県から東京都へ移動	佐賀県から東京都へ移動
3/16(土)	【視察】 江戸東京博物館 【視察】 浅草寺	【視察】 浅草寺 【視察】 お台場	
3/17(日)	【視察】 明治神宮・原宿 離日		

3. プログラム記録写真

全グループ（東京都）

	
3/11 【基調講演】 日本 MGM リゾーツ代表執行役員兼社長, 元在日米国大使館臨時代理大使 ジェイソン・P・ハイランド氏	3/15 【成果報告会】

グループA（青森県）



3/12【地域概要講義】南部町



3/12【視察】南部町営市場



3/13【文化体験】法光寺



3/13【学校交流】八戸学院大学

グループB（滋賀県）



3/12【地域概要講義】近江八幡市



3/12【歴史的建造物視察】近江八幡市



3/13 【企業視察】ラ コリーナ近江八幡



3/14 【ホームステイ歓送会】

グループC (佐賀県)



3/12 【表敬訪問】佐賀県庁



3/12 【歴史的建造物】佐賀城本丸歴史館



3/12 【文化体験】お琴体験



3/13 【学校交流】佐賀大学

4. 参加者の感想 (抜粋)

グループA (訪問地：青森県)

◆ プログラム冒頭の講義は、非常に有益で多くの情報を得ることができました。日本が少子高齢化問題を抱えていることや、災害復興に努めていることについては、すでに知っていましたが、実際体験した日本人から話を聞くことで現実味を帯びた講義となり

ました。学校交流では、日本で友情をはぐくむことができ本当に素敵な経験ができました。表敬・企業視察では、前述のとおり、少子高齢化対策、地方における災害復興への努力について実体験を聞くことができました。ホームステイでは、日本に新しい家族ができ、日本と密接な関係を築くことができました。今回の経験は国際事情を学ぶものとして有意義なプログラムとなりました。

◆ 最も印象に残ったことは、人口減少問題を抱える町に変化をもたらすため、地元果樹園の伐採木からスモークチップを作りそれを使った商品販売を行っている企業の社長さんからお話を伺い、多くのことを学んだことです。また、学校交流では、大学の学生から折り紙や習字を習い、大学生活について互いに話をすることができました。アメリカの外交官となった方の、外交官になるまでの道のり、また日米関係についてお話を聞くこともできました。ホストファミリーとは、戸外で炭火を使った焼き鳥を作ったり、トランプをしたり、また子供たちと一緒に写真を見たりしました。意思疎通が難しくても人と人との絆は育めるものです。東京についた最初の夜、日本のポップカルチャーやアニメの看板を見かけました。以前テレビや日本の漫画などで見たものとまさに同じでした。私の東京についての個人的な感想ですが、大都市の中心にあるにもかかわらず清潔で、謙虚な人ばかりで、街が静かであることに驚きました。東京のように都会の真ん中でゴミ一つない静かな環境、また「お客様は神様」という文化のある国は他にはないと思いました。

グループB（訪問地：滋賀県）

◆ 外務省での講義は感動しました。現在、国際情勢を専攻しているため、将来海外で勤務することが私の夢だからです。他の国々と米国との関係を築くために何かやりたいと切に願っています。また外国語を学び、異文化についてもさらに学びたいと思っています。ラ コリーナ近江八幡の社風や細部へのこだわりをずいぶん感銘を受けました。また、ラ コリーナ近江八幡や近江兄弟社が、顧客満足に重きを置いている点にも感銘を受けました。近江八幡市はまだ世界に知られていませんが、その持続可能性へのコミットメントは、多くの異なる分野で日本が主要な役割を果たしていることを示しています。すべての訪問地で、日本人はとても礼儀正しく、情熱的に私達を歓迎してくださり、私達を迎えるためにあらゆる努力をしてくださいました。この数日間の滞在で、真の日本社会の姿を見ることができました。

◆ 日野町で体験したことは、とても感動的でした。私が会った全ての人達はその町の豊かな伝統や歴史を生き続けさせるために懸命に頑張っていました。日野町の人々の深い尊敬、大事に思う気持ち、感謝を感じただけではなく、人々は互いに信頼しあっていると感じました。近年、日野町は、暮らしや伝統などの面で多くの課題に直面しています。特に人口問題は、日野町にとってとても深刻なように見えました。しかし、ホストファミリーを始めとして何の躊躇もなく人々はそれらに向き合っていました。なぜなら、自分たちの町やそこに住む人々を愛しているからです。故郷への愛なのです。このことが一番印象に残りました。ホストファミリーだけでなく、出会った全ての人々が地域

のことを誇りに思い、その姿を喜んで紹介してくれました。私は本当に感銘を受けました。私が今できることは、世界中の人達に日本での体験を話すことだと思いました。それ以上に個人的に将来においても役に立ちたいとも思いました。いつかホストファミリーと再会し、ホストファミリーや日野町のために何かできることをしたいと思います。

グループC（訪問地：佐賀県）

◆ 福岡と唐津市訪問は、とても気に入りました。琴の演奏と茶道を楽しく学びました。琴を弾くのは私の長年の夢でしたので、今回このような機会に恵まれて、本当に驚きました。私は、茶道の優美な歴史と共に、その美しさに魅せられました。お客様をもてなす準備では、自尊心やたゆまない努力が必要だとは思ってもみませんでした。唐津市では、ホームステイ先のお母さんと知り合うことができました。私は、自然が美しい場所を訪問し、自然の意味と重要性について学びました。私は、伝統的な日本のもてなしを受け、食事も用意していただき、とても嬉しく、歓迎されていることを実感しました。私は、日本の書道の筆使いと「平和」という漢字を教えていただきました。私はホームステイのお母さんの事を決して忘れないと思います。そして夏にはまた、お母さんに会いたいと思っています。

◆ 佐賀県庁の方が私たちを熱心に受け入れてくださったことは、大変印象的でした。私は、これまで会った全ての日本人に歓迎されていると感じました。レストランのウエイтрレスから政府の人たちまで全ての人達です。学校交流はとても有意義でした。日本人の学生と話す前は、大学生活や就職活動は日米で大差はないと思っていましたが、交流の後は多くの違いがあることがわかりました。そして、米国での生活の背景を考えるようになりました。今回の経験は貴重なものでした。もし私が、観光客として日本に来ていたら、このようなことに気づけなかったと思います。

5. 受入れ側の感想

◆ ホストファミリー（グループA）

明るく爽やかな紳士でした。夜ご飯を食べている時の彼ら4人は、常に笑顔で話していて、とても幸せな気持ちになりました。特にご飯を食べているときに常においしいと言ってくれました。意思疎通が図られなくても、コミュニケーションツールは言葉だけではないと思いました。

◆ ホストファミリー（グループB）

どの子も礼儀正しく、好感が持てました。たくさんの交流ができ、私達受け入れ家庭にとっても大変有意義な時間でした。ありがとうございました。

◆ ホストファミリー（グループC）

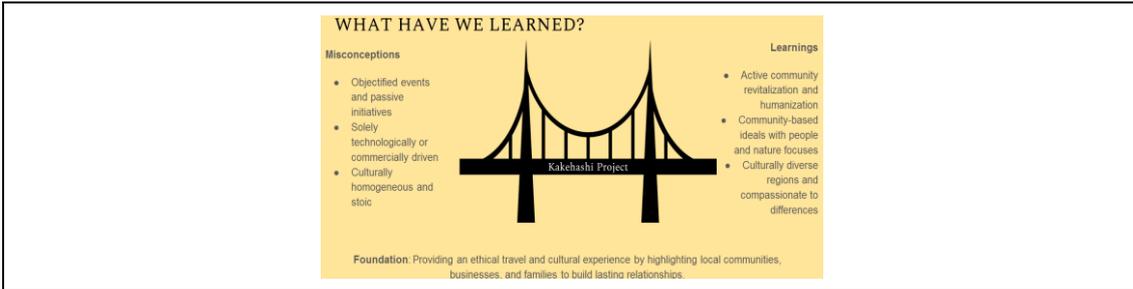
女性4名の受け入れでしたが、落ち着いた行動で心配はいりませんでした。言葉が通じない不安は少々ありましたが、携帯電話のアプリと身振りで大丈夫でした。一緒に毎大福づくりをしましたが、ラップ上で丸めるつもりが手にべったりとついてしまい、皆

で大笑いをしました。

6. 参加者の対外発信

 <p>I am having the most amazing homestay ever in #aomori! My host family own a farm where they grow apples. Everyone is very friendly and they cook extremely well. Hands down the best meal I have had so far. They let us borrow Kimonos for tomorrows dance we are learning and of course gave us fresh apple juice they made themselves! It is 100% apples. Also shout out to my new found friend Yoshiaki Kosaka for being so funny and helping me with my Japanese. I am so grateful to have this opportunity to spend with them, they are such amazing people. #Kakehashi2018 #nanbutown #りんご</p>	 <p>Vi Deane-Polyakさんが写真を追加しましたー五遊: Spencer Magguriさん、他9人 場所: 滋賀県 近江八幡市 投稿日 22:07</p> <p>Group picture from Vories Gakuen in Omihachiman, Shiga prefecture. I'm so glad I got to enjoy this trip with so many wonderful people! #Kakehashi2018 #Japan #USA #JICE</p>
<p>(グループ A) ホームステイについての発信 (Instagram)</p> <p>青森でとても楽しいホームステイをしています。ホストファミリーはリンゴ農家で、みな優しいですし、手料理も過去最高です。着物を借りて明日の踊りを習っています。自園のリンゴで100%ジュースを作ってくれました。新しく出来た友達の小坂さんは面白く日本語の練習相手になってくれます。皆温かくこのような機会を感謝しています。</p>	<p>(グループ B) 滋賀県近江八幡市ヴォーリズ学園についての発信 (Facebook)</p> <p>滋賀県、近江八幡市ヴォーリズ学園にてグループ写真。とても素晴らしい人々と一緒にこの旅を楽しめてとても嬉しいです。</p>
 <p>Liked by themasterdoodler and 6 others</p> <p>akmag4154 Today was amazing! We drove around Tokyo, attended orientation and lectures, had wonderful food, and flew to Fukui! We have our homestay tomorrow in Sagai! In one of the lectures, I was reminded of the importance of the relationships we make over time, and truly how special they are. More pics to come! #Kakehashi2018</p>	 <p>Liked by roman.icheek and 11 others</p> <p>carsten. b. howard Today was absolutely gorgeous and I met the most amazing and friendly people. #FungologicalJapan #Kakehashi2018</p>
<p>(グループ C) カケハシ・プロジェクト についての発信 (Instagram)</p> <p>今日は素晴らしい日でした。東京の車窓を楽しみ、来日オリエンテーションと講義に参加しました。そして素晴らしい食事をして、福岡に飛びました。明日佐賀でホームステイもあります。講義の中で、これまでの絆を大切にするという言葉が心に残りました。なんて素晴らしいのでしょうか。これからもっといろいろな事を学べると思います。</p>	<p>(グループ C) 文化体験 についての発信 (Instagram)</p> <p>今日は本当に素晴らしい日でした。私は、とても親切でフレンドリーな人達に会いました。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表



アクションプランの発表（グループ A）

アクションプラン実施時期：影響力のありそうな写真やメッセージなど重要ポストは帰国後すぐ実施する。

手法：フェイスブック，インスタグラム，また公式カケハシフェイスブック，ディスコード，ユーチューブなどにアップする。大学フェイスブックも有効だろう。

誰に何をアップするか：日本にはなかなか来られない低所得者層，奨学金寄付卒業生，国際関係，政治，社会科学を学ぶ学生に対し，日本で学んだ知見，経験，特に地方で受けたおもてなしなどを SNS などで発信していきたい。



アクションプランの発表（グループ B）

日本人と交流した際の個人の経験について少なくとも週に2回はソーシャルメディアに掲載する。近江八幡市や日野町の人々との個人の経験について，関連したイベントや広報などを通じて米国人に発信する。広く人気のある地元の大学のラジオ局に働きかけ，日本での経験についてポッドキャスト上で討論もやりたい。

私達の大学は，ワシントン DC の中央部に位置し，校内やそれ以外にも様々なメディアの発信地がある。ジョージワシントン日本文化協会に働きかけ，総会や日本文化を祝う例祭ジャパンフェストで話をしたい。また，校内新聞である GW Hatchet に連絡を取り，経験談を記事にしてもらう。

アクションプランの発表（グループ C）

① 1 名の学生がミニドキュメンタリーを作成し，プログラム中継続的に撮影をしている。ドキュメンタリーは，訪日団で共有し，ジョージアのフィルムフェスティバルで紹介される。

② 将来的に日本に留学する学生のために，パンフレットを作成する。

③ キャンパスで UNG の学生および同窓会のためにイベントを開催する。訪日団が個人的に体験したこと，日本の歴史，文化，経済，先進的な技術を紹介する。